

「小学校における英語活動の指導の在り方」

1 はじめに

平成10年12月の学習指導要領の改訂に伴い、「総合的な学習の時間」において国際理解に関する学習の一環として外国語会話を取り入れるなどの体験的な学習を行うことが可能になった。その結果、全国の多くの小学校で英語活動の取組が始まり、文部科学省が実施した平成18年度の「小学校英語活動実施状況調査」では、全国で95.8%の小学校が英語活動に取り組んでいる。

本県では平成16年度から18年度まで小学校「早期英語教育」推進事業を実施し、30校の研究モデル校において、小学校1、2年を対象とした英語活動の在り方等について研究した。また、本年度からは小学校5年を対象とした「『小学校における英語活動の在り方に関する調査研究』研究協力校事業」と小学校5、6年を対象とした「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」に取り組み、小学校英語活動の一層の充実を図っている。

今年の指定研究事業プロジェクト研究では、本県が平成16年度から18年度まで取り組んだ小学校低学年における「早期英語教育」の成果と課題を踏まえるとともに、「小学校における英語活動等国際理解活動推進事業」の拠点校の取組も考慮に入れ、中学年及び高学年における効果的な英語活動の指導の在り方について研究した。

2 小学校早期英語教育推進事業の成果と課題

本県では平成16年度から3年間、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るため、小学校1年生及び2年生を対象に小学校「早期英語教育」推進事業を実施し、平成18年度は30校の研究モデル校で早期英語教育に関する実践的な研究を行った。

最終年度の平成18年度には、14校の研究モデル校において研究発表会を実施したが、各モデル校において、指導方法やT・Tの在り方などに関して授業の改善と深まりが見られた。

また、平成18年2回実施した児童の意識調査（アンケート）の分析では、英語活動を通して、コミュニケーションに対する積極性や外国の文化への興味・関心が高まっていることが分かった。以下に平成18年度に各研究モデル校から報告された主な成果と課題を挙げる。

(1) 取組の成果

- ・ 英語やALTに対する抵抗感が薄れ、児童が笑顔で活動することができてきた。
- ・ 児童がALTの発音を繰り返して聞くうちに、自然な英語の発音ができるようになった。
- ・ 児童はゲームや歌、ロールプレイなどの活動を楽しみ、英語に関心をもつことができた。
- ・ 覚えたあいさつの表現や言葉を他の場面で使用したり、英語の歌を口ずさんだりするなど、日常的な場面でも英語を使うようになってきた。
- ・ 実践研究が深まったことで、学級担任がより積極的に英語活動に取り組むことができた。
- ・ 研修を重ねることで、教員は英語教材の活用方法を習得することができた。

(2) 課題

- ・ 英語活動をALTに任せることが多く、児童の実態に合わないことがあった。
- ・ ALTとの打合せ時間をどのように確保していくのか考える必要がある。
- ・ 今後は、担任が主となった英語活動の指導になるような研究が必要である。
- ・ 学校全体で、児童の実態に合わせた系統的な指導計画をどのように作成するか考える必要がある。
- ・ 低学年の児童は、日本語や数に関することの基礎的な知識の習得が未熟である。特に国語力の低

下が心配される現在、言葉の大切さや豊かさ等に気付かせたり、言語に対する関心を高め、これを尊重する態度を身に付けさせることに配慮しながら、英語活動を考える必要がある。

英語活動の進め方や活動内容に課題は見られるものの、英語活動を行う児童にはコミュニケーションに対する意欲、外国の人に積極的にかかわろうとする意欲、外国の文化や生活に対する興味・関心などにおいて高まりが見られる。この低学年における英語活動に対する動機付け及びコミュニケーションに対する意欲の向上をどのように中学年・高学年につなげていくのかを踏まえて、小学校6年間の英語活動の充実を図っていきたい。

3 中学年から高学年における英語活動の課題

低学年児童は、英語活動を楽しみ感じ、ALTの質問に物怖じせず答えたり、積極的にALTに話そうとする態度が見られた。しかし、そのコミュニケーションへの積極的な態度は、年齢が上がるにつれ、薄れていくことが報告されている。その原因として次のようなことが考えられる。

(1) 発達段階に起因するもの（9歳の壁）

8歳と9歳の間に発達上のボーダーラインがあり、心理的な転換期があると言われている。個人差はあるが、小学校3年生ごろまでは無邪気で、繰り返し練習すること等に抵抗がなかった児童が、小学校4年生ごろから無邪気さがなくなったり、単調な作業に抵抗を示したり、理屈っぽくなったりする。また、歌やリズム遊びの活動に対して恥ずかしさや照れを感じたり、新しい発見、知的好奇心への刺激、活動する目的などを求めるようになるという報告もある。

(2) 英語活動の内容に起因するもの

あらかじめ授業内容が定められ、児童はこれに従って学習していく英語活動（この種の活動をプログラム型と呼ぶことにする。）が小学校低学年から多く行われている。このプログラム型は、教師主導であるため、活動の流れをパターン化しやすく、教師にとって負担が少ないと同時に、活動を英語で行うことが容易である。しかし、各時間の活動内容につながりがなく、記憶に残りにくいことや、活動が歌やゲームなどに偏りがちになる。低学年からプログラム型で英語活動を行っている児童にとっては、活動に対して「新鮮さ」がなくなり、「物足りなさ」を感じるようになる。また、プログラム型は、「小学校学習指導要領」の総則第3の「総合的な学習の時間の取扱い」に示されている「体験的な学習や問題解決的な学習」にはなりにくく、児童の「自主的、自発的な学習が促される」とは言い難い面がある。

英語活動が進んでいくにしたがい、歌や遊びだけでは不十分で、児童の発達段階及び学習段階に応じた指導を考えることが重要である。

4 小学校における英語活動と国語学習との関連

平成15年3月に、『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』が示され、英語の授業の改善の目標として、「英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る」ことが挙げられた。また、英語の習得は母語である国語の能力が大きくかかわるものであり、英語によるコミュニケーション能力育成のためには、その基礎として、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高めることが必要であるとして、「英語によるコミュニケーション能力の育成のため、すべての知的活動の基盤となる国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する」ということも目標の一つとされた。

それ以前には、平成13年2月、「小学校英語活動実践の手引き」で、小学校における「英語活動」

のねらいについて、「言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要である。」と示されている。

小学校段階で英語活動を進めることに対して、「英語活動が始める前にまずなすべきは、母語できちんと考え、読み書きをし、コミュニケーションをする能力であり、そのための技術の指導が優先されるべきである。」(三森ゆりか氏)と指摘されるとおり、国語学習の中で伝え合う力を高める取組の充実を図っていくことが大切である。

それとともに、英語活動においては、

- ・音声を中心とする。
- ・子どもの日常生活に身近な事柄を扱う。
- ・子どもの「言いたいこと」「したいこと」を扱う。
- ・既知のものでも新たな発見をもたらす話題等を扱う。
- ・外国人の表現や身振りの中から、文化の違いに気付かせる。

等に配慮した内容で、子どもが英語に興味・関心をもち、英語を使う必要性が感じられる活動を通して、より確かなコミュニケーション能力の育成を図ることが大切である。

つまり、英語活動と国語科の学習を連携させ、様々な言語文化に触れるの中から感性や情緒をはぐくみ、互いの立場や考えを尊重していく姿勢、言葉を通して適切に表現したり理解したりして積極的に人間関係を結ぶことができる力を育成することが、今求められている。

5 中・高学年における英語活動の在り方

「中学年から高学年における英語活動の課題」で述べた課題を解決するためには、次のようなことを考慮する必要があると考える。

- ・児童の創造性や課題解決能力を育成するための目標や課題解決型の活動を設定する。
- ・自己決定をしたり、物事を判断したり、他者とのコミュニケーションを通して自分の考えを伝える場を設定する。
- ・単に英語を話すことを目的とするのではなく、児童が興味のある知識や情報を得ようとする際に、必然性を感じながら英語を使うことができるような学習とする。
- ・児童にとって新たに得られる情報に興味・関心がもてる内容、知的好奇心が刺激されるような内容を取り上げる。
- ・児童の認知的発達や思考の流れ、単元の連続性や発展性などを考慮する。

そこで、上記の5つの要素を英語活動に組み入れるためには、「プロジェクト型」の英語活動を今までの英語活動に取り入れることが問題解決に有効であると考えた。

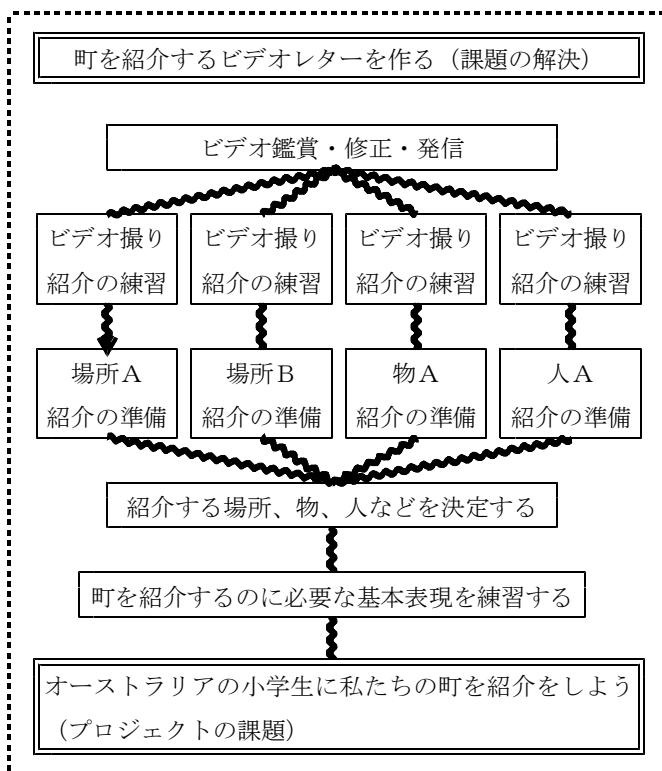
「プロジェクト型」の英語活動とは、「活動に課題を設定し、数時間をまとめ取りしてグループなどで主体性・自主性を最大限尊重しながら、創造的な活動をさせるものである」と東野、高島は説明している。「プロジェクト型」の英語活動では、「総合的な学習の時間」の考え方を踏襲し、活動に課題を設定し、個人、ペア、グループなどで英語を用い課題を解決していく。そして、課題の解決として、英語を使った発表、会話などを行う。東野、高島は「プロジェクト型」の英語活動を、絵本を題材とした「絵本型」プロジェクト、紹介・案内を題材とした「発展・発信型」プロジェクト、買い物などを題材とした「相互交流型」プロジェクトに分けている。

「プロジェクト型」の英語活動の流れをわかりやすくするため、一例を挙げる。

右の図は「発展・発信型」プロジェクトの例である。このプロジェクトの課題を、「オーストラリアの小学生にわたしたちの町を紹介しよう」とし、その課題解決のために「町を紹介するビデオレターを作る」と決めたとする。すると、まず第1段階として、町を紹介をする際に使う英語表現を学び、練習する。次の段階として、紹介する場所、物、人などを決定する。そして、第3段階としてグループごとに紹介したい場所、物、人に必要な表現を工夫、練習し、第4段階として、それぞれのグループごとの紹介をビデオで撮る。最終段階はグループごとで撮影したビデオを一つにまとめ、みんなで観賞し意見を出し合い、修正し、完成したビデオレターを発信する。

このような課題解決までの過程において、児童は自由に課題解決のための手段を選択・決定したり、趣向を凝らすなどの、主体的・創造的な活動を行うことができる。

本研究において、「プロジェクト型」の英語活動を取り入れることで、英語を覚えることを目的とした学習にせず、英語を人間関係を結ぶための言葉の一つとしてとらえ、コミュニケーション能力の向上のための英語活動とするような活動を目指した。次の6-1から6-4は小学校3年、4年、5年、6年を対象にしたプロジェクト型の英語活動の事例である。事例6-1と6-2が「相互交流型」プロジェクト、事例6-3と6-4が「発展・発信型」プロジェクトである。



6 事例

6-1 事例1 (第3学年)

- (1) 単元名：ALTと英語でクリスマス会を楽しもう！
- (2) 単元のねらい：色や果物を使ったゲームを通して、ALTとのクリスマス会を楽しむ。
- (3) 単元について

1年の頃から年に4～5回のALTと英語活動の授業を経験してきた児童である。年間実施回数が少ないため、学んだ会話表現等の定着はほとんど見られないが、英語に対する興味をもっている児童は多い。

本単元では、ALTとのクリスマス会を楽しむために、色や果物の英語での言い方を知り、日常の会話表現を定着させたいと考える。また、児童のプレゼント交換をしたいという思いから、英語を用いたクリスマスカードづくりを計画した。

本時のクリスマスカードづくりでは、児童が客と店主になって全員で活動したり、英語での会話の楽しさを感じたり、相手に通じる喜びを感じたりすることができるようにしたい。また、カードの材料を得るために必要なコミュニケーションを図る楽しさを味わわせたい。

児童は、英語に対して興味をもっている。この活動を通して、人とのかかわりをもつことの楽しさを感じさせながら、コミュニケーション能力を伸ばしていきたいと考える。

(4) 指導計画 (全6時間)

	学 習 活 動	指導上の留意点及び準備物等
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリスマス会を計画する。 ・ 何をするか、どのような学習が必要かを考える。 ・ あいさつの仕方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリスマス会のプログラムを考え、どのような準備が必要かを考え、今後の見通しをもたせる。 〈絵カード〉
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌やゲームを通して、色の言い方に慣れ親しむ。 ・ 歌「Hello!」を歌う。 ・ 色 (red, blue, yellow, green, white, black, orange, purple, pink) の言い方を知る。 ・ 習った表現を使って、カラーバスケットを楽しむ。 ・ 絵本「Brown Bear」を楽しむ。 ○ 歌やゲームを通して、果物の言い方に慣れ親しむ。 ・ 歌「Hello!」「Under the Spreading Chestnut Tree」を歌う。 ・ 果物 (strawberry, orange, grapes, peach, banana, apple) の言い方を知る。 ・ 習った表現を使って、ブラックボックスゲームや missing game を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌を歌うときは、児童の間を歩きながら、体で表現するように声掛けをする。リズムによって歌っていない児童には励ましながら、一緒に歌う。 ・ 一緒に口ずさめるように、抑揚を付けて読む。 ・ 児童の習得に応じて、英単語を増やしてみる。 〈CD〉 〈絵カード〉 〈絵本〉 〈果物の模型〉 〈ブラックボックス〉
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買い物ゲームを通して、ものをもらう時の表現に慣れ親しむ。 ・ 歌「Hello!」「We Wish You A Merry Christmas」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物表現を子どもたちに発音させ、子どもたちが正しく発音しているか観察し必要に応じてALTの後にリピートさせ

第3時	<p>を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本「Brown Bear」を楽しむ。 ・果物屋さんゲームをする。 (H R T ・ A L T …店屋、児童…客) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標会話表現 (Target Dialogue)</p> <p>S : Hello.</p> <p>C : Hello.</p> <p>S : ～, please.</p> <p>C : OK. Here you are.</p> <p>S : Thank you.</p> </div>	<p>る。</p> <p>〈CD〉</p> <p>〈絵カード〉</p> <p>〈絵本〉</p> <p>〈果物の模型〉</p>
第4時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリスマスカードを作る。 ・歌「We Wish You A Merry Christmas」を歌う。 ・クリスマスカードを作る。 ・カードを見せ合って、授業の振返りをする。 	<p>※ 本時案参照</p>
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリスマス会を楽しむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《プログラム》</p> <p>①はじめの言葉</p> <p>②歌「We Wish You A Merry Christmas」</p> <p>③ばくだんゲーム</p> <p>④フルーツバスケット</p> <p>⑤カード交換</p> <p>⑥A L T から</p> <p>⑦おわりの言葉</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・A L T と自然に会話ができる雰囲気をつくるために、声掛けをする。 <p>〈CD〉</p> <p>〈タイマー〉</p> <p>〈クリスマスカード〉</p>

(5) 指導の実際

ア 本時のテーマ (Theme) : クリスマスカードを作ろう

イ 本時のねらい (Aims) : クリスマスカードを作るを通して、ほしい物を人に尋ねたり答えたりする言い方を知り、会話を楽しむことができる。

ウ 言語材料 (Language Materials)

トピック (Topic)	語い (Vocabulary)	目標会話表現 (Target Dialogue)
～, please.	Please Color red, blue, yellow,	S : Hello. C : Hello.

	green, white, black, orange, purple, pink	S: ~, please. C: OK. Here you are. S: Thank you.
話題	言語材料	目標ダイアログ
～をください。	～をください。 色 赤、青、黄、緑、白、黒、 橙、紫、桃	客：こんにちは。 店：こんにちは。 客：～ください。 店：分かりました。はいどうぞ。 客：ありがとう。

エ 準備物 (Necessities for Activity)

クリスマスカードの台紙

カードの材料 (それぞれの色の文字、星、音符、雪、ハート)

フラッシュカード

CD

オ 展開 (Procedure)

展開 (Procedure)	児童の活動 (Students' Activity)	担任 (HRT) の活動 (Activity) 及び留意点	A L T (ALT)	備考 (Notes)
1 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ H R T や A L T と英語であいさつをする。相手をしっかり見て声を出す。 ・ Hello. ・ I'm ~. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表情に気を付けて気持ち相手が分かるように、率先して声を出し、一人一人の顔を見るようにする。 	<p>Greet the pupils.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Hello, everyone. ・ How are you? 	
2 歌	<ul style="list-style-type: none"> ・ “We Wish You A Merry Christmas.” を聴いて楽しく歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の間を動きながら、体で表現するよりに声かけをする。リズムにのって歌っていない児童には、励ましながら、一緒に歌う。 	<p>Sing the song with the pupils with action.</p>	CD
3 復習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「～をください。」という表現を思い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全単元を通じた活動と、今 	<p>Pronounce the words and sentences about</p>	

	ALT の発音を聞いて、 リピートする。	日の目的を確 認させる。一 緒に発音練習 をしながら、 児童の様子を 観察する。	Target Dialogue.	
4 カード作 りの説明	・デモンストレーション を見たり、説明をよく 聞いて、カードの作り 方を理解する。	・A L Tとデモ ンストレーシ ョンをするこ とによって、 児童にカード のつくり方を 理解させるよ うにする。	In cooperation with the HRT, have the pupils understand how to make a Christmas card through the demonstration.	
5 カード作 り	・材料をもらって、カー ドを作る。	・どの児童も活 動に参加して いるか見て回 る。 ・会話がスム ーズにできない 児童には、一 緒に会話をし ながら、活動 に参加できる ように声掛け をする。	Give the pupils some materials as a shopkeeper.	C D
6 まとめ	・カードを見せ合って、 授業のふりかえりをす る。 ・終わりのあいさつをす る That's all for today.	・ほしい材料を もらえたか、 大きな声で言 えたか、楽し くカードを作 ることができ たか自己評価 させる。	Ask the pupils what color it is. Greet the pupils. ・ See you.	

(6) 成果と課題

今回の研究の中で、目的を明確にし、そのために必要な英語での会話表現を学び、活用していくという単元計画を設定することにより、児童の意欲がより高められると感じられた。回数を重ねる

ごとに、「英語が好きになった。」、「今年の英語は楽しい。」という感想が増えてきたからである。プロジェクト型の授業により、児童の英語活動への意欲が確実に高まった。

今までの英語の学習は1時間ごとに内容が変わり、次の活動に前時の活動を生かすことがあまりできなかったが、今回のプロジェクト型の授業では、児童が「英語を使ってALTとクリスマス会を楽しもう」という目的意識をもって、毎時間の活動ができた。

本単元の目的であるクリスマス会の時間には、できるだけ英語を使いたいという思いから、司会者が『クリスマス会を楽しもう。』や『クリスマス会を終わります。』は英語でどう言うのか」とALTに尋ね、英語を積極的に使う姿が見られた。英語活動の中でもお楽しみ会ができたことに喜びを感じ、ALTと英語で会話し交流を深めることができた。

今後の課題としては、年間時数が少なく、積上げのあまりない状態からどのようなプロジェクトを計画し、児童に見通しをもたせるかということがある。また、プロジェクト型授業の中には話合いの時間があり、英語を使う場面が少ない時間もある。このことについても、授業展開等に更に工夫が必要であると考え。本校の場合は、ALTと共に学ぶ英語活動の時間は限られているので、ALTと学ぶ時間は英語での活動をできるだけ多くもちたい。よって、話合い等の時間には、HRTが主体となって、クラスの実態を考慮した指導に当たるべきであると考え。また、従来のプログラム型の学習よりもALTとの打合せを綿密にしておく必要がある。しかし、クリスマス会をすること、カードを作ること、ゲームをすることに夢中になり、本来の目的が薄れがちな場面もあった。この点についても、授業の方法を改善していきたい。プロジェクト型の授業は、児童の伝えたい分かり合いたいという思いを重視した活動であるために、様々な形態をとることができる。プロジェクト型の英語活動の取組により、単に表現技法を身に付けるだけでなく、コミュニケーション能力の育成につなげていきたいと考える。



6-2 事例2 (第4学年)

- (1) 単元名：お気に入りランチを買おう - 3けたの数の数え方-
- (2) 単元のねらい：買い物をする場面での店員とお客との会話を通して、3けたの数までの英語での数え方を知るとともに、友達と英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わう。
- (3) 単元について

本学級の子どもたちは明るく活発で、英語活動にも積極的に取り組む。1、2年生ではゲームや歌を通して、主にたくさんの語いを増やすことができた。3年生からは友達同士1対1で会話する場面を多く設定し、友達やALTと英語で会話することの楽しさを味わうことができた。1学期には、“Do you like ~?” “Yes, I do.” “No, I don't.” の表現を買い物を想定したゲームで行い、「自分の好きなもの表」を完成させた。子どもたちはとても楽しそうに夢中で取り組み、買い物ゲームに対してたいへん興味関心をもてた。しかしお金のやりとりや“May I help you?” の表現を学習するところまでには至らなかった。また10までの英語での数え方については日常的にもよく使われており、どの子どももたいへんよく知っている。しかし11からの表現は難しく、2けたの数の数え方は既習であるが全員に定着していないのが現状である。

海外旅行での楽しみの一つは、現地でおいしいものを買って食べたり、お土産を買ったりすることである。英語によるお店での会話表現は必要性が高い。本単元はお店でお気に入りの食べ物を買う「フードコートゲーム」を中心とした単元である。(本事例では買い物ゲームをフードコートゲームと呼ぶこととする。) 代金の支払いやおつりの計算を通して子どもたちが2、3けたの数に多く触れ、英語での数の数え方を定着させるものである。また子どもたちが店員とお客さんにと扮し、1対1で英語での会話を楽しむことができる。友達とコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができる教材である。指導にあたっては、プロジェクト型の英語活動を取り入れ、フードコートゲームをするために子どもたちが数の数え方やお店での会話表現について主体的に学ぶことができるようにしたい。また発話することができにくい子どもについては横について助言をするなどの配慮を行い、一人で自信をもって発話できるようにしたい。

(4) 指導計画

	学習活動	指導上の留意点および準備物等
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○ フードコートゲームをする計画を立てる。 ・ どんなお店をするか、どんな商品売るかを決める。 ・ お店で使う言葉を挙げる。 ・ 商品の英語での言い方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フードコートゲームに向けて、今後の学習の見通しが立つようにする。 ・ 子どもたちの自主的な取組を促し、意欲的に活動できるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数字の言い方を知る。 ・ フラッシュカードで練習をする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALTに発音してもらい、正しい発音を身に付けられるようにする。 ・ 20や50など間違いやすい言葉については、繰り返して練習できるようにする。

第2時

- ・グループに分かれて、一人ずつカードを取り、出た数字を答える。
- (1) 10 20 30など
- (2) 100 200 300など
- (3) 130 250 980など



- ・グループで聞き合い、お互いを確認できるようにする。

<準備物>

フラッシュカード・数字カード



数字カード

みあとE ふりかえりシート

★今日の反省を○・△・×で書きましょう。

①今日のみあとEは楽しかったですか? (○)

②正しくしゃべることができましたか? (△)

★感想を書きましょう。

ほくは前まで、2ケタ以上の数字の英語は苦手でしたが今日の英語では慣れました。フードコートゲームが楽しかったです。

みあとE ふりかえりシート

★今日の反省を○・△・×で書きましょう。

①今日のみあとEは楽しかったですか? (○)

②正しくしゃべることができましたか? (△)

★感想を書きましょう。

むずかしい数字を覚えたのでフードコートゲームでがんばりたいです。フードコートゲームでまだある言葉を覚えたいです。

第3時

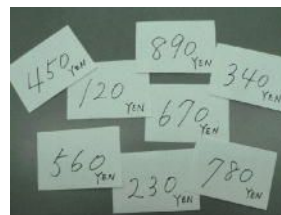
- お店で使う言葉を知る。
- ・お金を使ってグループで練習する。
- “How much?”
(値段カードを一枚引く)
- “〇〇 yen.”
- “Here you are.” (お金を渡す)
- “Thank you.”



- ・慣れてきた時点で、おつりのやりとりも加えて練習できるようにする。

<準備物>

値段カード・お金



値段カード



お金

みあとE ふりかえりシート

★今日の反省を○・△・×で書きましょう。

①今日のみあとEは楽しかったですか? (○)

②正しくしゃべることができましたか? (△)

★感想を書きましょう。

バウムツチという言葉はしらすですか? という意味いとか分かりました。今日のみあとEはゲームもしておつりを出したりしました。Eは女の子がたけま、女の子になりました。

みあとE ふりかえりシート

★今日の反省を○・△・×で書きましょう。

①今日のみあとEは楽しかったですか? (○)

②正しくしゃべることができましたか? (△)

★感想を書きましょう。

最初はむずかしいなーと思いましたが最初のHOW MUCH?とかMay I help you?とかは何回も聞いたらだんだん分かってくるので楽しかったです。それでお店をするのがうれしいです。

- ・“May I help you?” を練習する。

第4時

- フードコートゲームの準備をする。
- ・ 帽子・看板・お金・商品ディスプレイを作る。
- ・ 商品の値段を決める。



お金



看板



商品ディスプレイ

第5時

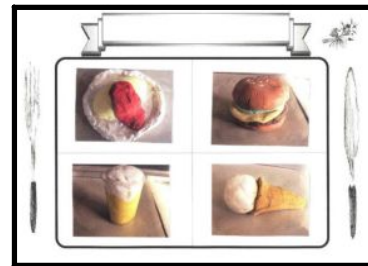
- フードコートゲームをする。



食べ物売り場①



食べ物売り場②



子どもたちが買ったランチメニュー
(ワークシート)



デザート売り場



飲み物売り場

みあとE ふりかえりシート

★今日の反省を○・△・×で書きましょう。

①今日のみあとEは楽しかったですか? (○)

②正しくしゃべることができましたか? (△)

★感想を書きましょう。

ぎのつうちに全部覚える
 しました。お店や習い言葉
 を通して、べていくうちに、たぐ
 んや明がでてきました。そのぎ
 間をアハハ先生に聞いてた
 とけたのがよかったです!!

みあとE ふりかえりシート

★今日の反省を○・△・×で書きましょう。

①今日のみあとEは楽しかったですか? (○)

②正しくしゃべることができましたか? (△)

★感想を書きましょう。

とても楽しかったです。また
 やりたいと思います。今までの中で
 一番おもしろかったです。
 がんばったのは人の目を見て
 話すことでも

(5) 指導の実際

ア 本時のテーマ(Theme) : フードコートゲームをする。(5/5)

イ 本時のねらい(Aims) : 買い物に必要な英語表現を使って、友達と積極的に会話をする。

ウ 言語材料(Language Materials)

Topic	Vocabulary	Target Dialogue
foods	curry and rice, hamburger, sandwich, spaghetti, chicken, salad, soup, omlet,	Hello. May I help you? ○○, please.
drinks	cola, milk, juice, beer,	How much?
desserts	cake, vanilla icecream, chocolate icecream, strawberry icecream,	△△ yen. Here you are. Thank you You're welcome.
話題	言語材料	目標ダイアログ
食べ物	カレー、ハンバーガー、サンドウィッチ、スパゲッティー、チキン、サラダ、スープ、オムレツ、	こんにちは。 いらっしゃいませ。 ○○下さい。
飲み物	コーラ、牛乳、ジュース、ビール、	おいくらですか。 △△円です。
デザート	ケーキ、バニラアイスクリーム、チョコレートアイスクリーム、ストロベリーアイスクリーム、	どうぞ。 ありがとう。 どういたしまして。

エ 準備物 CDプレーヤー CD フラッシュカード 食べ物・飲み物カード
商品ディスプレイ エプロン 帽子 ワークシート のり 看板

オ 展開

展開 (Procedure)	子どもたちの活動 (Students' Activity)	担任(HRT) の活動(Activity)	A L T (ALT) 及び留意点	備考(Notes)
1 あいさつ	・HRTやALTと英語 であいさつをする。 ・Hello. ・I'm ~.	子どもたちが元気よく あいさつできるような 雰囲気づくりをする。	・Greet the pupils. ・Hello, everyone. ・How are you?	
2 歌	“I have two eyes.”を 歌う。	動作を交えながら共に 歌い、子どもたちが楽 しく歌えるような雰囲 気づくりをする。	・Sing the song with the pupils with action.	CDプレーヤ ー CD
3 復習	・フードコートゲームの 中で使う単語や文を確 認し、練習する。	フードコートゲームの 中で使う文を子どもた ちに発音させ、子ども	・Pronounce the words and sentenses	フラッシュカ ード

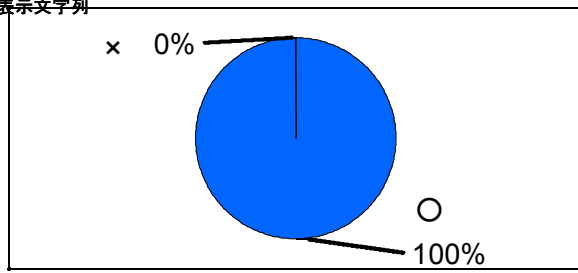
	<ul style="list-style-type: none"> • Hello. • May I help you? • ○○, please. • How much? • 1 ~ 990 yen. • Here you are. • Thank you. • You're welcome. 	<p>たちが正しく発音しているか観察し、必要に応じてALTの後にリピートさせたりする。</p>	<p>about shopping.</p>	
4 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> • 店員とお客さんに分かれ、フードコートゲームをする。 	<p>子どもたちが正しく会話ができているか観察し、必要に応じて、個別の支援をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Talk with the pupils as a customer and check their pronunciation. 	<p>食べ物・飲み物カード 商品ディスプレイ エプロン 帽子 のり 看板 ワークシート</p>
5 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> • 終わりのあいさつをする。 	<p>子どもたちが元気よくあいさつできるような雰囲気づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • That's all for today. 	<ul style="list-style-type: none"> • Greet the pupils. • Thank you, everyone. • See you. 	

(6) 成果と課題

いろいろ覚えたりしたかいがありました。

フードコートゲームを終えた子どもの振り返りの中の一文である。フードコートゲームに至るまでに子どもたちが一生懸命取り組んできたことが分かる。子どもたちは第1時の導入（フードコートゲームの計画の段階）からモチベーションが高かった。振り返りの中でも、準備段階から本番のゲームまでの5時間とも「今日の英語活動は楽しかったですか。」の質問に対して参加児童全員が「はい」という回答であった。（グラフ1）

表示文字列

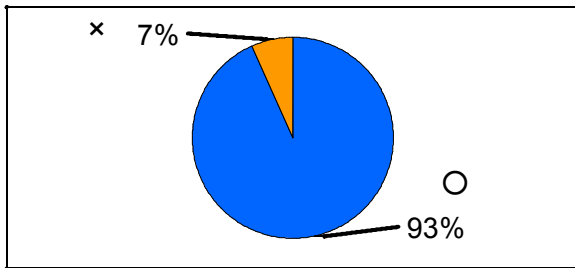


グラフ1 英語活動は楽しかったですか？

(各5時間)

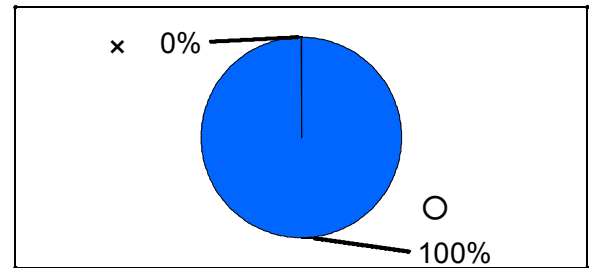
学習意欲を駆り立てるような導入が成功の鍵であると考えます。

子どもたちの定着を調べるために、フードコートゲームから約2週間後に聞き取り調査を行った。結果は以下の通りである。



グラフ2 “May I help you?”

定着率 (2週間後)

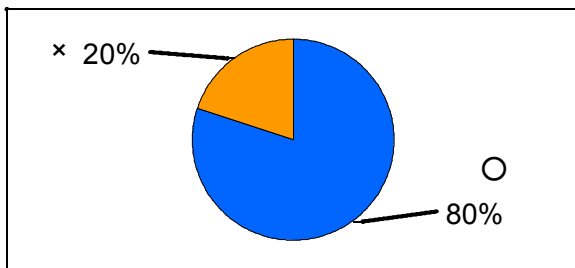


グラフ3 “How much?”

定着率 (2週間後)

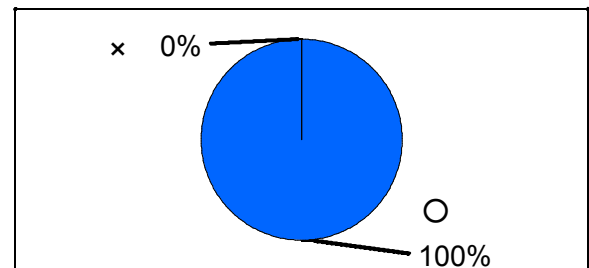
学習の段階で“May I help you?”は子どもたちにとって難しかったようであったが、フードコートゲームで何度も耳にし、口にする中で定着した。ゲーム中は全員が言うことができていた。2週間後の調査でも約93%の子どもが覚えていた。(グラフ2) “How much?”は2週間後でも全員が覚えていた。(グラフ3) 教師との反復練習だけでなく、子どもの自発的な発話が定着をより確かにしているものと考えられる。

3けたの数の数え方については120(one hundred twenty)を“one hundred twoty”と答える間違いがやや多く見られた。(グラフ4)しかし240(two hundred forty)は100%の定着率であった。(グラフ5)このことから“May I help you?” “How much?”に比べそれぞれの数の発話数が少なかったため、定着はやや劣るものの「2けたの数は～ty とつける」、「3けたの数は hundred」という基礎的な知識はフードコートゲームで全員に定着したといえる。



グラフ4 “120(one hundred twenty)”

定着率 (2週間後)



グラフ5 “240(two hundred forty)”

定着率 (2週間後)

これはプロジェクト型の英語活動の中で反復練習がなされた結果であると考え。そして振り返りの中には、

“May I help you?” がむずかしかったので、次までには絶対言えるようにしたい。

ゲームの時に完ぺきにできるか心配です。もっともっと勉強します。

などと目標をもち、向上しようとする子どもたちの記述が多く見られた。このような子どもたちの意欲も定着の大きな一因を成したといえる。子どもたちにとって学んだことがすぐに使えるという期待感と充実感は、学習意欲となり定着につながった。さらに本番のフードコートゲームの中で『一番高いものは何ですか?』って言いたいんだけどなんて言うの?」「もっとお客さんを呼び込みたいんだけど “May I help you?” 以外に『いらっしゃいませ』の言葉はないの?』と子どもたちがALTに尋ねる場面が見られた。基礎の確かな定着によって、新たな疑問や課題を子どもたち自身が自ら見付け出すことができた。

プロジェクト型の英語活動はロールプレイ・ビデオレター…など様々な学び方を、特に表現・発信の方法を子どもたちに提供できる。これらの学びは英語活動にとどまらず、国語や社会など他教科にも応用が可能であり、すべてのコミュニケーションの土台となるものであると考える。ただ「英語を学ぶ」のではなく、英語を媒体としてたくさんの自己表現の手段に触れることができるプロジェクト型の英語活動は、コミュニケーション能力の育成に貢献できるものである。

一方でこのプロジェクト型の英語活動を実現するためには、各段階（計画→準備→本番）において多くの時間を費やさなくてはならない。年間数時間の英語活動だけで取り組むには厳しい現状がある。しかしながら学習指導要領の改訂により5、6年生に週1時間の英語活動が行われることになったことをかんがみれば、子どもたちが目標をもち、英語活動に主体的に取り組めるこのプロジェクト型の英語活動が果たす役割は今後更に大きくなると考えられる。

6-3 事例3 (第5学年)

(1) 単元名：My hometown によるこそ！

(2) 単元のねらい：実際に英語が必要になる場面を体験させ、英語への興味を高めさせる。簡単な英語表現に慣れさせる。

(3) 単元について


1年生の頃から年に4、5回のALTの授業を経験してきた子どもたちである。これらは英語に触れ、楽しむことを目的にした授業であり、毎年この英語の時間を楽しみにしている子どもの数は少なくない。ただ、年間の回数が少なく、英語への興味のもちようは様々であるように思われた。2学期から、5、6年生では週1時間程度の英語の時間が総合的な学習の時間に位置付けられた。




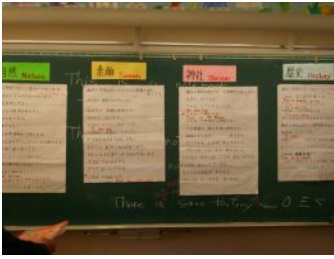
授業ではALTの発音を聞き、必ず個々で発音練習をする機会を設けるなど、声を出す英語活動を多く取り入れることを目標にしている。簡単なあいさつなど、基礎的なことから始めている。これまで教科・曜日・数など基本的なテーマで練習してきた。発音練習のときに、思い切り声が出せるように、英語教室も作られた。また、普段から少しずつ教室で使う英語を取り入れている。このような環境の中で子どもたちは、英語に対して興味をもって取り組んでいる。普段の生活の中で、身近な会話や出来事を英語で話そうとしたり、日常使っている言葉を英語でどのように表現するのかと、教師に質問したりしている。

このような子どもたちの様子から、より英語に対する目的意識や意欲を高めるため、2学期中頃から、実践的に英語を使う場面を多く設定することを意識し、自分たちの学校を外国の人に紹介することを課題としたプロジェクト型英語活動の単元を設定することにした。織田小学校のことを知らない外国の人に、自分たちの伝えたいことを伝えてみようとする中で、コミュニケーション能力が高まることをねらいたい。

また、これまでの1時間の中で活動内容が決まっている英語活動とは違い、時間をかけて1つの課題に取り組んでいく中で、子どもたち自らが言いたいことを選び、伝えようとする、主体的な学習の場面を増やしていきたい。

(4) 指導計画 (全8時間)

	学習活動	指導上の留意点及び準備物等
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を使って自己紹介やあいさつをする。 ・あいさつの大切さを知り、はっきりと自分の名前を伝える。 ・自己紹介カードを使って、国籍や名前を変えたつもりになって自己紹介の練習をする。 	<p>大きな声ではっきりと伝えることを意識させる。</p> <p>楽しみながら、英語を話す機会をつくる。</p>  <p>〈自己紹介カード〉</p>
第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの家族に伝えたいことを考える。 ・遠足で見てきた場所から校区で紹介したいものを選び、それを紹介するグループをつくる。 ・話し合って紹介文をつくる。 	<p>外国の人に紹介することを確認し、紹介文を見直させる。</p> <p>〈遠足で撮ってきた写真・資料〉</p>

<p>第 3 時</p>	<p>○資料や写真などを基に、より分かりやすい紹介文をつくる。 ・紹介文を基に、模造紙に写真や絵を配置した地図を作る。</p> 	<p>・より分かりやすくするためにどうすればいいかを考えさせて、紹介文の見直しをさせる。 ・地図を作る中で、子どもたちが必要とする単語を紹介する。 (模造紙・遠足で撮ってきた写真・資料)</p>
<p>第 4 時</p>	<p>○ What is ～ ?を使って文を作る。 ・ What is ～ ?を知り、箱の中の物を手探りであてるゲームをする。</p> 	<p>・楽しみながら英語を声に出せるように支援する。 ・相手を意識した丁寧な言葉のやりとりをさせる。 (箱・文房具)</p>
<p>第 5 時</p>	<p>○ This is /These are ～.を使った文を知る。 ・ This is ～.を知り、紹介文に当てはめる。 ・単数と複数について知る。 ・単語の練習をする。</p>	<p>・繰り返し練習させることによって、慣れさせる。</p>  <p>〈絵カード〉</p>
<p>第 6 時</p>	<p>○ There is/are ～.を使った文を知る。(本時) ・ There is/are ～.を知り、紹介文に当てはめる。 ・単語の練習をする。</p>	<p>・繰り返し練習させることで慣れさせる。 ・単数と複数について整理させる。</p>  <p>〈絵カード〉</p>
<p>第 7 時</p>	<p>○紹介するのに必要な一般動詞を知る。 ・ play、drink、eat、visit を知り、紹介文に当てはめる。 ・単語の練習をする。</p>	<p>・日本語の動詞について確認する。 ・必要な単語を教える。 (絵カード)</p>

3 新しい表現を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「～があります。～がいます。」の表現を知る。 ・ There is/are ～.の発音を繰り返し練習する。 ・ グループで紹介文を確かめ、There is/are ～.がどこで使えるかを考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に発音練習をしながら子どもたちの様子を観察する。 ・ 自分たちが言いたい文の中で There is/are ～.が使えるか確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ There is/are ～.の発音を教える。 ・ There is/are ～.の使い方をモデル文で教え、発音させる。 ・ 各グループをまわり、発音を誉めたり、質問に答えたりする。 	紹介文のプリント
4 グループになって、紹介文に、There is/are ～.を当はめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが考えた文を聞いてアドバイスしたり、ALT に確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発音や語句の使い方のアドバイスをする。 	紹介文を書いた模造紙
5 一言感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学習の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめをし、次時への展望をもたせる。 		感想用紙

(7) 成果と課題

今は、英語やアルファベットが身の回りにたくさんある。その中で子どもたちは、英語に興味をもっている。英語活動が始まる前、子どもたちの英語への反応はあこがれと不安があった。「私はこんな英語を知っているけれど、もっと話してみたいと思っています。」「英語はよく知らないので授業が始まったら大丈夫かなと心配になりました。」などの意見が多く見られた。

今回、プロジェクト型の英語活動に取り組んでいく中で、自分たちで学校の周りのことを紹介したいという目的をもつことができたことが子どもたちの大きな意欲と自信につながったと感じた。

自分たちの小学校のこんなことを伝えたい、この英語を知りたい、まだこの言い方が分からない、そんな言葉とともに、子どもたちは英語の時間を待ち望むようになった。自分で地域に関する英単語を調べてみたり家で家族と考えたりしながら紹介文の続きを考えている子どもたちもいた。時間が進み、いくつかのゲームや活動をする中で、英語を不安に思っていた子も周りの子に負けない大きな声で発音の練習をし、あいさつや発表の場面で進んで英語を話してみようとするようになってきた。「早く紹介する英語を使ってみたいと思います。」という感想にその気持ちが表れていた。

また、継続的に課題に取り組むことで、英語に関する意欲や意識が続くことは、子どもたちが自然な形で英語に触れることができると思われる。このプロジェクトに取り組み始めて、英語活動を行わない普段の学校生活の中でも英語に注目する機会が増えてきた。紹介には多くの単語が必要であったため、朝の時間、絵カードでの練習を続けた。その中で、外来語やアルファベットへの興味が高まり、あいさつなどの簡単な英語表現を通して英語に対して身構えることがなくなってきたようである。2学期末、初対面のALTに対しても目を見て笑顔であいさつし、知っている英語を使

ってなんとかコミュニケーションを図ろうとする子どもが何人もいたことには驚かされた。

また、この活動を通して言葉でのコミュニケーションの大切さや難しさにも触れることができた。英語をほとんど知らない子どもたちが自分の伝えたいことを考え、日本語を知らない人にどのようにすれば、より理解してもらえるのか考えることが一番難しかった。大きな声でゆっくり、はっきりと話さなければ伝わらないことはもちろん、紹介文の内容に関しても工夫が必要だと子どもたちは気付いていった。単元が進んでいく中で、日本のことをよく知らない聞き手のことを考えながら、もっと説明が必要なところ、複雑すぎるため言葉を省くところを見付け、何度も文を作り直した。改善していくうちに、自分が伝えたいことを明確に意識することができた。また、伝えたい日本語をそのまま英語に直そうとすると、とても調べきれず、逆に難しくなることを知り、なんとか他の簡単な言葉で言い換えることはできないかと考えるグループもあった。この英語活動をしたことで、今までよく知っているつもりだった日本語についても深く考える機会となった。

以上の点を含め、小学校高学年が行う英語活動として、プロジェクト型の活動は子どもたちが意欲をもって学べる方法の一つだと考える。

しかし、今回初めて行ったこの活動を振り返ると、力不足、準備不足に思われる点が多くある。子どもたちが、紹介文を作っていく活動では、自分自身もまだポイントを押さえ切れておらず、明確なアドバイスがしきれなかった。そのため、アドバイスしなければならないことが後手へ後手へと向かってしまい、子どもたちの意志を生かしきれなかったように思われる。また、途中の話し合い中心の活動では日本語ばかりの展開もあり、英語活動としてこれでよいのか悩んだこともあった。確かに、プロジェクト型の活動には多くの時間がかかる。だからこそ、時間をかけるところを見極めてしっかりと計画をたて、系統性を大切にしながら英語活動の工夫と改善を積み重ねていきたい。

6-4 事例4 (第6学年)

(1) 単元名 : Our School Life

(2) 単元のねらい : 自分たちの学校生活について、簡単な英語を使ってビデオレターを作成し、海外の同年代の子どもたちに積極的に伝えようとする。

(3) 単元について

この学年の児童は、1年の時から1、2か月に一回程度の英語活動を経験し、英語に慣れ、英語を使った活動を楽しんできた。6年生になり、ALTの後について英語での発声を繰り返したり、英語を使ったゲームを楽しんだりしているが、それだけでは、低・中学年のように満足できないように感じられる。

1学期には、修学旅行で訪れた広島市の平和公園で外国の方に平和等に関するアンケートへの記入をお願いした。その際、あいさつ等を英語で行った。自分たちの英語が通じたことに自信をもち、活発に楽しんで活動していた。

夏休みに「Genki English」のリチャード氏に来ていただき、職員研修を行った。その際、高学年のモデル授業として本校の5、6年生の一部の児童と共に英語活動を行っていただいた。学校給食のメニューについて、写真を用いながら簡単な英語で説明をして、Eメールでいろいろな国の小学生と交流しようという内容であった。そのことが印象に残っていたようで、卒業まで半年となり、これまでの英語活動のまとめをどうするか話し合ったとき、自分たちの学校生活について、外国の小学生に発信したいという声が児童から上がった。

日本の学校生活を外国の同年代の友達に知ってもらえるように、必要な表現についてはALTの助けを得ながら、映像で視覚にも訴えて発信しようという計画を児童とともに立てていった。


この授業に先駆け、これまでの英語活動を整理する意味で、国語の授業とも関連付けて「カタカナとアルファベット」や「外来語と英語」等の学習をした。アルファベットと結び付けて英語の音を学ぶことで、日本語の音の特徴に気付いたり、日本語の中に英語に由来する言葉がたくさんあることなどに気付いたりすることができた。

この活動では、児童自身が切り取った自分たちの学校生活の一部を英語で発信できるようにしたい。ALTに補助してもらいながら、平易な表現で伝えることができればよいと考えている。

(4) 指導計画 (全10時間)

	学習活動	指導上の留意点及び準備物等
第1時	○ 外国の12歳の友達に発信する内容について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までにALT等から聞いた話を思い出し、それぞれの国や地域によって家庭生活や学校生活の様子が異なることを再確認する。 ・自分たちが知りたいことを伝えるとよいことに気付かせる。
第2時	○ 教科及び学習内容で使う言葉を知る。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・教科及び学習内容について話し合う。 ・教科名を知り、練習する。 ・英語や日本語で教科名を聞き、カードを取るゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科名は、少しずつ増やしながら、慣れさせるようにする。 ・ゲーム中であっても、忘れたらすぐに確認できる位置に教師やALTがいるように気を付ける。



	<ul style="list-style-type: none"> ・教科名を文に入れて練習する。 ・紹介したい活動を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオでの映像も使いながら紹介できるような活動を選ぶように助言する。
第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科及び学習内容で使う言葉を知る。(2)(本時) ・教科名の復習をする。 ・教科名を使ってゲームをする。 ・各教科の活動内容の言い表し方を練習する。 ・文として練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割を使ったゲームでは、一人一人が発声できるようにする。 ・～ing や study、play などよく出てくる単語や表現に気付かせる。 ・すべてを覚える必要はないことを伝え、簡単なものや興味のある表現から慣れていくように助言する。 
第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間割を説明する言葉を知る。(1) ・読書の時間、一時間目、給食、掃除などの表現を練習する。 ・グループで曜日を決めて、活動を言ってみる。 ・何時から何時までという表現の練習をする。 ・活動と時刻を組み合わせて、クイズをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な表現が多いので、繰り返し練習し、自信をもって言えるようにする。 ・互いに教え合いながら活動するように助言する。 ・まず、60までの数を復習する。 ・グループでいろいろなパターンの問題を考えさせる。
第5時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間割を説明する言葉を知る。(2) ・前時の活動と時刻に関する表現を復習する。 ・休み時間にする遊びや活動の中で、何を伝えたいか話し合う。 ・休み時間にする遊びや活動の言い表し方を練習する。 ・ジェスチャーを使ったゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが伝えたいと思う活動や、相手が興味をもつと思われるものを選ぶように助言する。 ・遊びについての表現は、身体表現とともに練習させる。 ・話された英語をジェスチャーで表現したり、ジェスチャーがもつ意味を英語で表現したりするゲームを使って習熟させる。
第6時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紹介したい献立の言い表し方を知る。(1) ・紹介しようとする献立について話し合う。 ・グループで1つの献立を選び、どう表現するか話し合う。 ・ALTに相談しながら、適切でしかも簡単な表現を見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気のある献立や、外国の人には珍しいと思うものを選ぶように助言する。 ・できるだけ今まで学習した言葉を使って説明してみるように助言する。 ・できあがった表現が適切かどうか確認する。
第	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紹介したい献立の言い表し方を知る。(2) 	

7時	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に各グループで考えた表現を全員で確認し、練習する。 ・献立当てクイズをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えた英語での表現を全員で確認し、ふさわしいかどうか考えさせる。 ・A L TやH R Tの英語での説明を聞き、その献立の絵カードを取らせる。
第8時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海外の児童に見てもらおうビデオレターを作成する。(1) ・教科、校時、給食の3つのグループに分かれる。 ・グループで何を伝えるのか相談する。 ・A L Tに助言してもらいながら伝えたいことを英語で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数にあまりばらつきが出ないように調整する。 ・今まで学習した内容を基本に、その中から選んだり、付け加えたりしてもよいことを知らせる。 ・映像も使うことを意識させ、簡単な英語で表現させる。
第9時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海外の児童に見てもらおうビデオレターを作成する。(2) ・どのような場面の映像が必要か相談し、グループで練習する。 ・リハーサルをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えた説明に合った場面を考えさせる。 ・本番では、他のグループの児童にも出演してもらってビデオ撮影を行うことを考慮して、リハーサルをさせる。
第10時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海外の児童に見てもらおうビデオレターを作成する。(3) ・ビデオレターを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速さや明瞭さに留意して話すことを意識させる。 ・場面ごとに確認しながら撮影を進める。

(5) 指導の実際

ア 本時のテーマ (Theme) : Activities in Each Subject 3 / 10

イ 本時のねらい (Aims) : ~ ing の形を使って、各教科での活動を英語でどう表現するかを知る。

ウ 言語材料 (Language Materials)

Topic	Vocabulary	Target Dialogue
subjects activities	Japanese, math, science, social studies, music, home economics, P.E., art, integrated study, studying Japanese history. sewing an apron. etc	We study ~ . This is ~ class. We are ~ ing.
話題	言語材料	目標会話表現
科目 活動	国語、算数、理科、社会、音楽、家庭、体育、図工、総合的な学習 歴史の勉強をしている エプロンを作っている など	～などの科目を学習します。 ～の授業です。 今～をしています。

エ 準備物(Necessities for Activity)

絵カード、マグネット、短冊

オ 展開(Procedure)

展開 (Procedure)	児童の活動 (Students' Activity)	担任 (HRT) の活動 (Activity) 及び留意点	ALT(ALT)	備考 (Notes)
1 あいさつ	・顔を見て元気にあいさつする。	・顔を見て元気にあいさつできるように促す。	Greet the pupils. "How are you?"	
2 教科名を復習をする。	・カードの絵を見て教科の英語での言い方を復習する。	・正しく発音できているか観察し、支援する。	Pronounce the words of subjects. Put the subjects into the sentences "We study ~ ."	Picture cards
3 教科名を使ったゲームをする。	・時間割ゲームをする。(6チームに分かれ、各曜日の時間割を見て、英語で表現する。)	・ゲームの仕方を説明する。 ・まちがっても認められるような雰囲気をつくる。	Listen to pupils' expressions and guess the days.	
4 各教科の活動の内容の言い表し方を練習する。	・紹介したい各教科の活動内容を英語でどう言い表せばいいのかALTに教えてもらう。 ・ジェスチャーをしながらALTの後について繰り返す。	・ALTのジェスチャーを真似しながら発表するように助言する。	Teach the pupils how to say each activity in English with action.	短冊
5 文として練習する。	・ALTの後について繰り返して発音する。	・少なくとも1つの表現は覚えるように助言する。	Put the words into the sentence , "We are ~ ing ~." Encourage the pupils.	
6 まとめとあいさつ	・振り返りカードを書く。元気よくあいさつをする。	・振り返りカードに記入させる。	Greet the pupils.	

(6) 成果と課題

昨年度は、2年生を担当していた。低学年の児童は、新しい言葉を覚えることだけで英語活動を楽しんでいると感じる。もちろんそこには、ALTやHRTの授業を楽しめる雰囲気づくりや授業のテン

ポのよさが大切である。そこへ歌や楽しいゲームを加えることで意欲的に取り組み、次の授業を心待ちにするようになる。

ところが、高学年ではそれだけでは意欲的な活動になりにくい。特に低学年から英語活動を続けている児童は、新鮮さを失い気恥ずかしさも手伝って声を出さなくなりがちである。

今回、「外国の小学生に日本の学校生活に知ってもらおう」という目標をもったことで、前向きに取り組む姿勢が見られた。一人一人が何かを伝える必要があるからか、これまでゲームにも消極的だった児童が自分の番が回ってくる前に、「社会ってなんていうんやった？」と尋ねてきた。振り返りカードを見ると、これまで英語に苦手意識をもっていた何人かの児童が、「楽しかった」と答えている。

しかし、児童が伝えたいと思う内容を英語で表現するときには、知らない表現が多く出てくる。すべて覚える必要はないと言っても、これまでのプログラム型の活動でいろいろな言葉をまじめに覚えてきた児童の中に、「難しい。」「発音が分かりにくい。」などと振り返りカードに書いていた児童もいた。毎日の朝の会や授業の中で、学習した英語表現を繰り返し練習する場面を設け、定着を図っている。毎日口にすることで、むずかしいと感じていた表現が自然と出てくる経験をさせ、言い慣れることの大切さを実感させたい。

2月中にはビデオレターの形で発信して、卒業までに海外の小学校の1つからでも返事をもたらえたらと考えている。自分たちの英語が他の国の小学生に通じ、自分たちの小学校生活に興味をもってもらえたという体験から、英語っておもしろい、役に立つという思いを実感させて卒業させたい。

7 終わりに

小学校の英語活動においては、言語習得を重視せず、児童のコミュニケーション能力の土台作りをすることが重要であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成や言葉のもつ意味を認識させることが望まれている。小学校の英語活動は主にALT等とのT・Tで行い、児童に歌やゲームなどを通して英語表現に慣れ親しませることにより、英語に対する興味を持続させることが重要である。しかし、学年が進むにつれ、英語活動に対する意欲が減少してくる傾向がある。そのため、より意欲的に英語活動に取り組みせ英語を使うという目的意識を高めるために、今回の研究では、プロジェクト型の英語活動を取り入れた。

プロジェクト型の英語活動の指導にあたって、まず、コミュニケーション能力を伸ばす等の目標を達成するように指導計画を立てた。例えば、数時間で1つの単元を組み、最後の活動において自己表現ができるように、様々な場面でのやりとりに必要な英語表現を繰り返し練習させ、身に付けさせた。単元の最後には、今までに習得した英語表現を使用することによって自分が相手に伝えたいことを表現させるなど、まとめの活動を行わせた。

事例6-1から6-4のすべて事例において、児童は、友達と楽しくコミュニケーションを図ったり、目的意識をもって活動したり、自主的に練習に取り組んだりしており、このプロジェクト型の英語活動の指導を行うことによって、どの学年の児童にも英語に対する興味をもたせ、意欲を失わず積極的に活動させることができたと思われる。また、伝えたいことを伝えることができたという達成感も味わわせることができたと思われる。

しかし、課題としては、指導計画を立てたり教材を作成したりすることに多くの時間を費やすことが挙げられる。また、限られた時間の中でいかに多くの英語にふれさせ使用させることができるかを考えることや、多くの教員が指導のポイントを押さえ、児童に明確な助言をすることも求められる。

プロジェクト型の英語活動の指導を円滑に行うためには、教員は、いくつかのプログラム型の英語活動を通して学習する表現や言葉を活かせるようなプロジェクト型の英語活動を、計画的に設定するなど、年間計画を立てる際に工夫することが重要である。児童が「英語って楽しいなあ!」「自分の伝えたいことが相手に伝わったよ。」などと言えるような英語活動になるよう、今後も研究を深めていきたい。

参考・引用文献

- | | | | |
|-----|---|-------|------|
| (1) | 小学校学習指導要領 | 文部科学省 | 2004 |
| (2) | 小学校学習指導要領解説 総則編 | 文部科学省 | 2004 |
| (3) | 小学校英語活動実践の手引 | 文部科学省 | 2001 |
| (4) | 英語教育 5月号 | 大修館書店 | 2006 |
| (5) | 東野裕子、高島英幸 小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価 | 高陵社書店 | 2007 |
| (6) | 樋口忠彦他 小学校からの英語教育 | 研究社出版 | 1999 |
| (7) | 松川禮子 みんなでつくる英語の時間 100 Exciting Activities | 文溪堂 | 2000 |